

# 荷重重心とベクトル

$n\vec{PA} + m\vec{PB} = \vec{0}$  を満たす点 P は、線分 AB を  $m:n$  の比に分ける点

$n\vec{PA} + m\vec{PB} = \vec{0}$ ,  $m+n \neq 0$  のとき

$$(m+n) \cdot \frac{n\vec{PA} + m\vec{PB}}{m+n} = \vec{0}$$

線分 AB を  $m:n$  の比に分ける点を Q とすると

$$(m+n)\vec{PQ} = \vec{0} \text{ すなわち } \vec{PQ} = \vec{0}$$

点 P は点 Q と一致する。よって、

点 P は、線分 AB を  $m:n$  の比に分ける点である。

これは、始点を O に変えて

$$n(\vec{OA} - \vec{OP}) + m(\vec{OB} - \vec{OP}) = \vec{0} \text{ から}$$

$$\vec{OP} = \frac{n\vec{OA} + m\vec{OB}}{m+n} \text{ となることから分かる。}$$

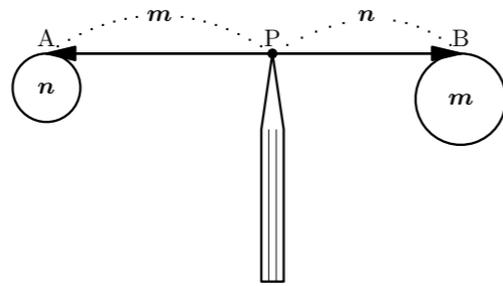
ベクトルを物理的な力とみなせば  $n\vec{PA} + m\vec{PB} = \vec{0}$  は、

点 P が力のモーメントの支点 ( $\vec{0}$ ) と考えられる。

AP : PB =  $m:n$  であるとき、点 P で釣り合うには、点 A,

B に吊す荷重はそれぞれ ②, ① である。

また、点 P にかかる荷重は  $(m+n)$  である。



$l\vec{PA} + m\vec{PB} + n\vec{PC} = \vec{0}$  を満たす点 P の位置

【例題 1】  $\triangle ABC$  において、 $4\vec{PA} + 3\vec{PB} + 2\vec{PC} = \vec{0}$  を満たす点 P を求めよ。

【解】  $4\vec{PA} + 5 \cdot \frac{3\vec{PB} + 2\vec{PC}}{5} = \vec{0}$

より、線分 BC を 2:3 に内分する点を Q とすると、

$$4\vec{PA} + 5\vec{PQ} = \vec{0}$$

ゆえに、点 P は線分 AQ を 5:4 に内分する点である。

一般化して、

$l\vec{PA} + m\vec{PB} + n\vec{PC} = \vec{0}$  を満たす点 P は

$$l\vec{PA} + (n+m) \cdot \frac{m\vec{PB} + n\vec{PC}}{n+m} = \vec{0}$$

より、線分 BC を  $n:m$  に内分する点を L とすると

$$l\vec{PA} + (n+m)\vec{PL} = \vec{0}$$

ゆえに、点 P は線分 AL を  $(n+m):l$  に内分する点である。

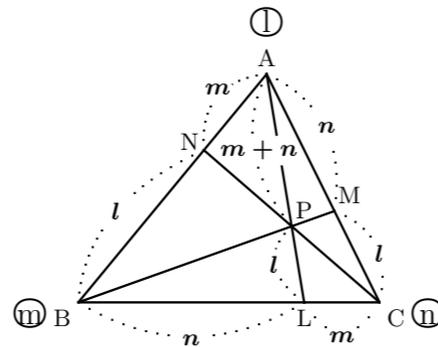
同様に、 $m\vec{PB} + (n\vec{PC} + l\vec{PA}) = \vec{0}$ ,  $n\vec{PC} + (l\vec{PA} + m\vec{PB}) = \vec{0}$

とみれば、

線分 BC を  $n:m$  に分ける点を L, 線分 CA を  $l:n$  に分ける点を M, 線分 AB を  $m:l$  に分ける点を N とするとき、直線 AL, BM, CN の交点が点 P である。

点 P が線分 AL を  $m+n:l$  に分ける点であるから

点 A を始点にとれば、 $\vec{AP} = \frac{n+m}{l+m+n} \cdot \frac{m\vec{AB} + n\vec{AC}}{n+m}$  と表せる。

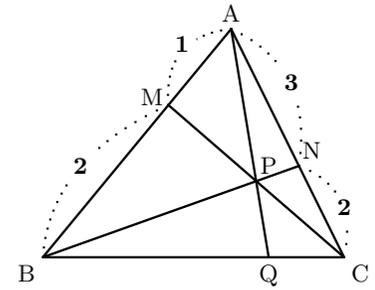


線分 BN と線分 CM の交点 P

【例題 2】  $\triangle ABC$  の辺 AB を 1:2 に内分する点を M, 辺 AC を 3:2 に内分する点を N, 線分 BN と線分 CM の交点を P, 直線 AP と線分 BC との交点を Q とする。

$$\vec{AP} = x\vec{AB} + y\vec{AC}, \vec{AQ} = z\vec{AP}$$

をみたす実数  $x, y, z$  を求めよ。

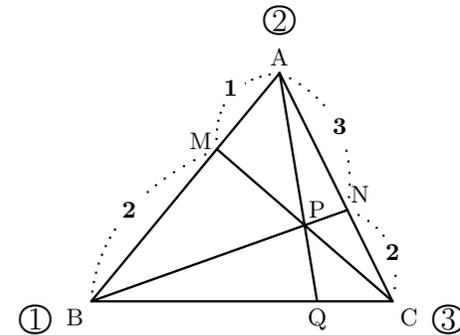


AM : MB = 1 : 2, AN : NC = 3 : 2 より

頂点 A の荷重を ② とすると、

頂点 B, C の荷重はそれぞれ ①, ③ とできる。

点 P は、頂点 A, B, C にそれぞれ ②, ①, ③ の荷重がある場合の荷重重心である。

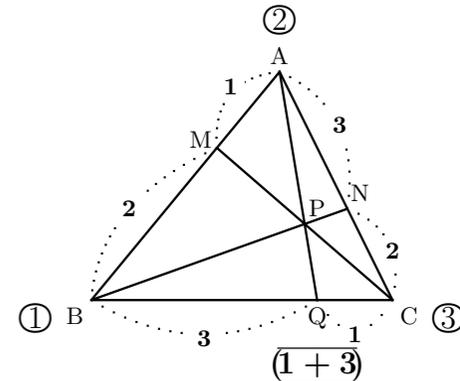


頂点 B, C のそれぞれの荷重が ①, ③ より

BQ : QC = 3 : 1 である。

$$\vec{AQ} = \frac{\vec{AB} + 3\vec{AC}}{3+1} = \frac{\vec{AB} + 3\vec{AC}}{4}$$

また、頂点 Q には (1+3) の荷重がかかる。



頂点 A, Q のそれぞれの荷重が ②, ④ より

AP : PQ = 4 : 2 である。

$$\begin{aligned} \vec{AP} &= \frac{4}{4+2} \vec{AQ} = \frac{2}{3} \vec{AQ} \\ &= \frac{2}{3} \cdot \frac{\vec{AB} + 3\vec{AC}}{4} = \frac{1}{6} \vec{AB} + \frac{1}{2} \vec{AC} \end{aligned}$$

$\vec{AB}$  と  $\vec{AC}$  が一次独立であるから

$$x = \frac{1}{6}, y = \frac{1}{2} \quad \boxed{\text{答}}$$

$$\vec{AQ} = \frac{3}{2} \vec{AP} \text{ より } z = \frac{3}{2} \quad \boxed{\text{答}}$$

頂点 P には ⑥ の荷重がかかる。

結局 AM : MB = ① : 2, AN : NC = ③ : 2 より

$$\vec{AP} = \frac{\vec{AB} + 3\vec{AC}}{2 + ① + ③} = \frac{1}{6} \vec{AB} + \frac{1}{2} \vec{AC} \text{ となります。}$$

